



暑中お見舞い申し上げます。 令和5年7月31日 第15号



炎暑ことのほか厳しい中、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

夏休みが始まって十日が経ちました。子どもたちが元気に充実した夏休みを過ごしていることを願いつつ、本校職員も夏休み後の授業準備や各種研修にいそしんでいるところです。七月二〇日の前期前半最終日に子どもたちを下校させた後、閑散としていた昇降口を見て、正直ホッとした思いがあったものの、十日も経つと、空っぽの下駄箱を見れば寂しさを感じる今日このごろです。朝から学童に通う児童の弾けるような笑顔を見て、力を得ることもあります。

グラウンドの仮校舎と渡り廊下はほぼ形になり、南校舎（元二年生教室）は、竣工以来四七年の時を経て、今まさに取り壊されようとしています。いよいよ新校舎の建築が始まります。

夏休みの第一日目は、妙泉寺公園のラジオ体操でした。約二〇名の子



どもたちは、「夏休み一日目」という言葉の発する魔力にもれなく絡め取られ、早朝にもかかわらずギラギラした目の輝きとともに、この夏休みを楽しもう、充実させようという思いにあふれているのを感じました。保護者の方も大勢来られていました。子どもたちほどの目の輝きがない（失礼）のは大人だから当然としても、若干の疲れ、もしくは「憂い（うれい）」といひましようか、若干なのですがそういうものが感じられたことや、そのご様子に一人の親として何となく共感を覚えたのは、きっと私の気のせいです。そして、ラジオ体操を主催された妙泉寺公園ラジオ体操の会の皆さまをはじめとする地域の方々は、ご高齢にもかかわらず、子どもたちに勝るとも劣らないくらいお元気でした。

二九日（土）は、合志市の人権教育研究大会でした。これは、講演がメインの大会ですが、私たち西南小職員にはオーピングの須屋神楽も、講演に勝るとも劣らないメインです。

神楽の原型は神事として約千年程度前からあるものの、須屋神楽は大正初期に始まったものです。とはいえ百年以上続くものであり、百年前の人たちは、この伝統芸能に魅力を感じて厳かに舞っていた百年後の子どもたちの姿を想像したでしょうか？ 百年続けるというのは、とてもない努力が必要です。特に変化が激しく、何でも合理性で判断される近年は、状況に合わせて変えていくことよりも、状況にかかわらず変わらぬに守っていくことの方が難しいと思います。須屋神楽保存会の皆さまには頭の下がる思いです。この日、厳かに舞っていたのは高学年の子どもたちです。それを見ている下の学年の子どもたちにとっては憧れを感じたはずで、これからも、子どもたちにとって須屋神楽はそういうものであって欲しいです。

さて最後になりましたが、子どもたちの夏休みの生活の様子を知りたいと思ひ、下記アンケートを作成しました。リンクになっておりますので、お子さんの学年のアンケートにご回答いただければありがたいです。内容は「**あああへくてゲームワン**」という、「**あさおき・あさごはん・あいさつ・へんじ・くつそろえ・てつだい・ゲーム**」一時間以内で、休み前に子どもたちに伝えたことです。少なくとも二〇〇ほどの回答をいただけると、ある程度の傾向が分かります。八月六日（日）までにご回答をお願いします。この暑さはまだしばらく続きそうです。皆様くれぐれもご自愛くださいませ。

- 1年 <https://forms.gle/wTXd6rMBNEjp4RXS8>
- 2年 <https://forms.gle/KttNXe1MHRjhA7Az9>
- 3年 <https://forms.gle/FcgVNsKjfDqGWNiZ6>
- 4年 <https://forms.gle/SGhNzzJajJbNZsPb9>
- 5年 <https://forms.gle/5jvYnphK3XSbwkbt6>
- 6年 <https://forms.gle/kzkzyLVqLad3kc2cA>

